

積み重ね つみ重ねても またつみかさね

令和3年7月14日 No. 18 文責：佐野紳二

外国語・外国語活動の学習の様子

この学校通信でも以前にお伝えしたことがありますが、今年度は3～6年生がALTのジェフ先生と一緒に外国語（外国語活動）の学習に取り組んでいます。3，4年生は担任の石黒先生、小笠原先生が、5，6年生は外国語担当の河野先生がジェフ先生と一緒に授業を進めています。

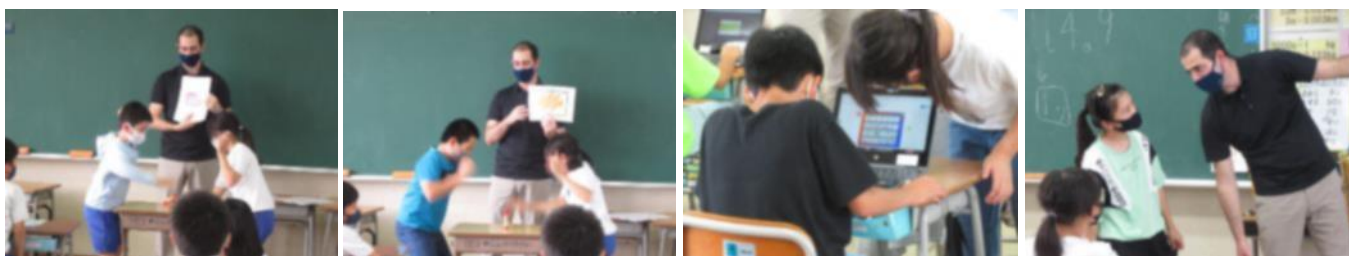


小学校に外国語の学習が導入されたのには、大きく2つの理由があると言われています。一つ目は、世の中や世界の流れです。国際化が進む今の世の中で、英語の力がないと国際社会の中で自分の考えを主張していくことができずに世界から取り残されてしまう、そんな現状に対応するという理由です。もう一つは、英語の学習を始めるのが中学校からでは遅いのでは、という考えです。英語に慣れ親しみ、英語を体で覚えられる時期に取り入れる。コミュニケーションとはどういうものか、文法などの構造的知識をあまり考えずに、遊びの中でコミュニケーション自体を楽しめる年齢から始めるということが大切だという理由からです。



ここで大切なのは、「小学校の外国語教育では、知識を獲得することより、コミュニケーションを体験することがより重視されている」ということです。特に、外国語教育の始期である3，4年生では、「英語で〇〇が言えるようになった」とか「単語をいくつ覚えた」ということより、「積極的にコミュニケーションを図ることができた」とか「楽しく活動することができた」ということが大切になるのです。（5，6年生になると、コミュニケーションのほかに「読むこと」と「書くこと」が目標に加わるので、ある程度の知識や技能も求められるようになります）

来週の今頃には、どの子も担任の先生から通知表（わたしのきろく）をもらいますが、外国語（活動）の評価を見るときには、ここに書いたことも参考に見ていただけるとありがたいです。



3，4年生の外国語活動。コミュニケーションが重視されているので、ゲーム的な要素も授業の中に積極的にとり入れます。4年生はクロームブックを使って自分の1日をまとめ、友だちに紹介しました。



5，6年生の外国語には、「読む」「書く」学習が加わります。5年生も6年生も発表原稿を英語で書き、みんなの前でスピーチするという学習に取り組んでいました。

オオムラサキセンターに行ってきました 2年・生活科見学

9日（金）に2年生が生活科見学でオオムラサキセンターに行ってきました。

事前学習でもオオムラサキセンターのことや見学するときの注意・約束についてしっかり学び、楽しみにしていた生活科見学。当日は朝からあいにくの雨模様でしたが、子どもたちは目をキラキラさせながらバスに乗り込みました。

午前中は「びばりうむ」でオオムラサキの観察です。係の方にオオムラサキのことを教えていただき、観察スタート。この時期は幼虫・サナギ・成虫をすべて見るができるばかりでなく、サナギから羽化したばかりの個体を見ることもでき、子どもたちはオオムラサキを見つけるたびに大歓声！また、オオムラサキだけでなくカブトムシやナナフシまで見ることができ、子どもたちのテンションも上がりっぱなしでした。

おうちの方がつくってくれた美味しいお弁当を食べ、午後からは展示館の見学です。今度は世界中のカブトムシやクワガタを見るだけでなく、実際に触れてみることもでき、午前中以上にみんな大満足です。

オオムラサキセンターは1年中見学することができる施設ですが、やはりオオムラサキが羽化し、カブトムシやクワガタが活動する今の時期が見ごろのようです。昆虫好きの子にとっては魅力いっぱい、たまらない施設だと思います。興味がある方は是非一度お出かけください。（何だか、宣伝になってしまいました…）



今年の夏休みは7月21日（水）～8月26日（木）の37日間です

昨年は新型コロナウイルス感染症による臨時休校の影響でとても短かった夏休みですが、今年は例年通りの長い休みとなります。

各学年のおたよりや学校からの通知で、夏休み中の過ごし方については連絡があると思いますが、夏休みは子どもたちの自主性を伸ばす、またとない機会です。ご家庭でも夏休みの過ごし方について子どもと話をいただき、計画的に過ごす37日にしてほしいと思います。

依然として新型コロナウイルスの感染拡大が続いています。それぞれのご家庭におかれましても、夏休み中も感染症対策の継続と徹底をお願いします。（以下の5点は、県から依頼のあった感染症対策です）

- ・基本的な対策（3密の回避、正しい手洗い、マスク）を徹底する。
- ・感染拡大地域への移動については、不要不急の場合は控える。
- ・家庭に持ち込まない、広げない。（家庭内感染を防ぐため）
- ・会食は、お店のルールを守って、グリーン・ゾーン認証施設を利用する。
- ・大人数の会食、不特定多数が集まる場への参加など、感染リスクの高い行動は控える。

